

研究会（全体会）

幼稚園3・4・5歳児クラス公開保育・1年生授業（平成28年11月14日実施）記録

（文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 河合 優子 先生 視察）

幼小

子どもの主体性を育む幼小の円滑な接続の在り方を探る
～幼児と児童の数的感覚を中心に～

小

主体的に学び続ける子の育成
～実態に合った算数的活動の充実を通して～

1. 本日の保育について（幼稚園より）

○5歳児

- ・子どもたちが、みんなで楽しく過ごせる人数やルールを試行錯誤している。

2. 1年生より

- ・生活科と算数科で合科的に取り組んだ。
- ・今日作った数やあとどのくらい作ればよいかを、算数で学習してきたことを使って求めようとした。

3. 指導助言

文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 河合 優子 先生

○今日の授業について

- ・今日の時間の事が、明日や一週間後など今後に繋がっている。
- ・どんぐりの帽子や襷など、雰囲気づくりに愛を感じた。
- ・ダンボールでも映えるような、キラキラしたものが材料に置いてあってもよかった。身近なものでつくろうというねらいなら、それは余分になる。
- ・子どもたちが赤いシールを貼って数を確認していたが、別の紙を指導者が切って指導するのではなく、貼ったものを使って展開するとよかったと思う。
- ・主体的に学ぶという内に「自分で学習する」と「仲間と学習する」の二つがあったように思う。
- ・南天の実を付けたものを見せて「どう？」「いいね。」という自分の考えを交流する場が芽生えていた。子どもたちの学びの素地だと言える。
- ・子どもたちのやる気や工夫がキラキラと見えた。つながりがあっての相手意識だと思う。



○幼小連携について

- ・まず、「幼稚園に行こう。」と思って行動することが大切。
- ・幼稚園と小学校の教職員同士が気軽に声が交わせる雰囲気を子どもたちは見ている。これは、安心・安全につながると考える。

○幼稚園では・・・

- ・手遊びをしていたが、数が埋め込まれている。(幼稚園における数的な感覚)
- ・このクラスには4歳と5歳がいて指で数を表して教えてくれた子どもがいた。
- ・「12月生まれなの。」というこの場の中にも数が埋め込まれている。



○今後の研究について

- ・価値のあること
 - ①大人同士が協力し合って子どもたちを見ていこうという素地がある。
 - ②共通のキーワードがある。子どもの姿を通してのスタートカリキュラムになっている。
- ・今まで埋め込まれていた「数的感覚」について光が当たった。
- ・出前授業として一定期間、幼稚園の指導者が小学校で指導するのは、優れた取組。
- ・幼稚園と小学校の考えが違うのが当たり前だが、率直に交流できていることは重要。
- ・幼稚園と小学校で物のやり取りがなされているのも、幼小連携として新鮮。
- ・幼稚園でできていたことが、場所が変わったり、指導者が変わったり、友達が変わったりするとできなくなることがある。子どもたちが混乱しているからである。ただ、そういう経験も必要と考える。なので、スタートカリキュラムは、何でも段差を無くしたり低くしたりする必要はない。子どもの姿を見て、幼稚園と小学校が一緒に考え、付け足したり改善したりしていくものである。
- ・幼小連携の究極の成果は、大人同士が交流してどのように指導が変わったかということ。